

主格助詞ノとガの区別

馬渡孔明

はじめに

佐賀県の方言話者は主格の「ノ」と「ガ」を区別せずに用いることが多々ある。佐野(2008)も、標準語の主格助詞「ガ」が用いられるところで、佐賀方言は2つの主格助詞「ノ」と「ガ」のどちらを用いても表せる場合があると述べている。今回の調査では、他の地域の話者でも似たような傾向があるのか調査する。

方法

Google formを用いてサークルのメンバー1に回答してもらった。質問内容については、佐野(2008)が用いたものを参考に、主格助詞の「ノ」と「ガ」のどちらを用いた方が違和感を覚えないか、もしくはどちらも違和感を覚えないかどうかを回答してもらった。また、合わせて出身地域についても回答してもらった。例文には主語の異なる10個の文を用意し、人が主語の文を3つ、動物が主語の分を2つ、物が主語の文を3つ、尊敬文を2つの用意した。

結果

最終的な回答者数は19名だった。その内訳は、東北出身が1名、関東出身が12名、中部出身が5名、九州北部出身が1名だった。いずれの地域においても、尊敬文に関しては「ガ」の方が違和感を覚えないという回答が半数以上を占めていた。主語が人の場合は、関東では「ノ」「ガ」「どちらも違和感はない」と回答した割合はおおよそ同じだった。中部では、およそ半数が「ガ」であり、それ以外の回答は「ノ」「どちらも違和感はない」が同じ割合だった。一方、サンプル数の少ない九州北部では「どちらも違和感はない」が100%、東北では「ガ」が100%だった。動物が主語の場合は、関東では70%ほどが、中部では半数が「ガ」と回答した。九州北部では「ガ」と「どちらも違和感はない」が同数であり、東北では「ガ」が100%であった。物が主語の場合は、関東では70%以上が、中部では60%が「ガ」と回答した。九州北部では、33%が「ガ」、67%が「どちらも違和感はない」と回答した。東北では100%が「ガ」と回答した。

結論：主格助詞として「ノ」を用いるのは一般的ではないが、違和感を覚えない人も一定数存在する

尊敬		人		動物		物	
が	62.50%	が	30.56%	が	70.83%	が	77.78%
の	20.83%	の	33.33%	の	12.50%	の	0.00%
どちらも違和感がある	4.17%	どちらも違和感がある	0.00%	どちらも違和感がある	16.67%	どちらも違和感がある	8.33%
どちらも違和感はない	12.50%	どちらも違和感はない	36.11%	どちらも違和感はない	0.00%	どちらも違和感はない	13.89%
図1.関東の結果							

尊敬		人		動物		物	
が	100.00%	が	0.00%	が	50.00%	が	33.33%
の	0.00%	の	0.00%	の	0.00%	の	0.00%
どちらも違和感がある	0.00%	どちらも違和感がある	0.00%	どちらも違和感がある	0.00%	どちらも違和感がある	0.00%
どちらも違和感はない	0.00%	どちらも違和感はない	100.00%	どちらも違和感はない	50.00%	どちらも違和感はない	66.67%
図2.九州北部の結果							

尊敬		人		動物		物	
が	90.00%	が	46.67%	が	50.00%	が	60.00%
の	0.00%	の	26.67%	の	20.00%	の	13.33%
どちらも違和感がある	10.00%	どちらも違和感がある	0.00%	どちらも違和感がある	10.00%	どちらも違和感がある	6.67%
どちらも違和感はない	0.00%	どちらも違和感はない	26.67%	どちらも違和感はない	20.00%	どちらも違和感はない	20.00%
図3.中部の結果							

尊敬		人		動物		物	
が	100.00%	が	100.00%	が	100.00%	が	100.00%
の	0.00%	の	0.00%	の	0.00%	の	0.00%
どちらも違和感がある	0.00%	どちらも違和感がある	0.00%	どちらも違和感がある	0.00%	どちらも違和感がある	0.00%
どちらも違和感はない	0.00%	どちらも違和感はない	0.00%	どちらも違和感はない	0.00%	どちらも違和感はない	0.00%
図4.東北の結果							

考察

結果より、多くの地域では「ガ」を主格助詞として用いることが多いということがわかった。一方で、「ノ」を主格助詞として用いることに違和感を覚えないと回答した人が一定数いることもわかった。古文では「ノ」を主格助詞として用いることがあるので、実際には使用していないが違和感は覚えないと回答した人がいるのではないかと考えた。また、今回の調査では対象者の両親の出身地については調査しなかったが、これも回答結果に影響したのではないかと考えられる。

また、佐野(2008)の調査結果によると、佐賀県、特に佐賀西部においては、物が主語の場合や敬意を表す場合には「ノ」が用いられる傾向にあるということだったが、今回の調査結果によるとそのような傾向はあまり見られないということがわかる。特に、尊敬文の場合にはこの傾向が顕著であり、多くの対象者が「ガ」を用いると回答していた。一方で、人が主語の場合には東北出身の人を除いて、「ノ」と「ガ」のどちらか、もしくはどちらも違和感を覚えないと回答した人が同じくらい存在した。これは非常に興味深い結果であり、回答者の方言とも関係がありそうではあるが、詳細はもう少し調査を進めなければ判断できなさそうである。

最後に、今回の実験ではGoogle formによるアンケートという形式で調査を行ったが、方言は基本話し言葉であり、イントネーションなどによっても印象が大きく変わると考えているので、実際に会話を聞いて回答する形式にするとより良い実験になっただろう。また、主格の「ノ」と「ガ」だけではなく、所有を表す助詞として「ノ」と「ガ」を両方用いるので、これも併せて調査すれば異なる傾向が見えてきたかもしれない。

おわりに

今回の実験を通して、主格助詞として「ノ」を用いるのは一般的ではないが、違和感を覚えない人も一定数存在するということがわかった。しかしながら、さらなる調査をすることによって異なる傾向が見出せそうである。

文献

佐野, 佐賀方言における主格助詞「ノ」と「ガ」について, 思言 東京外国語大学記述言語学論集, 第4号, 2008, 93-100